

平成28年7月4日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公述申込書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

(ふりがな)

こ ばやし ひろ

氏名

小林 博

(郵便番号) 〒

住所

職名

無職

年令

65歳

3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

[Redacted]

携帯

[Redacted]



宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社からの軌道運送高度化実施計画の認定申請事案」に対する公述書

小 林 博

① 宇都宮発展に無くてはならないLRT

宇都宮市には平出工業団地があり、さらに清原工業団地が造成されました。魅力ある団地にはキャノン、デュポンなど世界企業が立地する内陸型工業団地として国内最大規模の団地に成長しました、宇都宮テクノポリス地域の中心的役割をになっていると聞いております。又その東側には芳賀工業団地があり本田技研工業などが立地しております。それらの果実として雇用と、税収が県、市、町に得られました。

しかし反面交通渋滞という負の側面がクローズアップされました。

現在世界的にCO2削減が叫ばれている中、渋滞解消はもとより、CO2を排出する車の削減が課題でもあると思われます。また工業団地従業員は、通勤に無駄な時間を費やし、全体では莫大な時間の損出となっております。

当該工業団地従業員が自家用車から、LRTに通勤形態を変更することにより、駐車場が不要になります。

清原工業団地を例に取りますと。航空写真で見ると広大な駐車場が見られます。このような土地が駐車場の用途として不要になった暁には、是非とも企業および従業員の意識改革によりますが。通勤手段を車からLRTに変更することにより、有効な工場敷地が拡大され、工業生産高のアップ、それに伴い、雇用の拡大につながると思われます。

② LRTを既存鉄道へ乗り入れる

ドイツドレスデンで行われているLRT貨物輸送であります、これはモーダルシフト

の一例ですが、工業団地内企業で軽量な部品や生産物の流通手段として使用可能でないかと思われます。そのためには、LRTをJR宇都宮駅でJR東日本に乗り入れをすることで、将来は真岡鐵道や東武鐵道などへ乗り入ることにより、物流や人の流れが車からLRTへと世界が求めているCO2削減に寄与するものと思われます。

#### ③ JR宇都宮駅西側への延伸を求める

ネットワーク型コンパクトシティを目指す宇都宮市としては、既に南北軸とて、JR東日本と東武鐵道があります。そこで、パーソントリップ調査などを元にして東西軸の整備を検討し、今回のLRT整備事業が始まったと思われます。

本来LRTを整備するならば、市役所や県庁のある都市拠点地域中心部と産業拠点などを結び一体で整備するのが交通ネットワークを考える本来の姿と考えますので、JR宇都宮駅から西側、つまり都市拠点の中心部まで事業を延伸して頂きたいと思います。

#### ④ 宇都宮市民憲章

市民憲章には「宇都宮市は、恵まれた自然と古い歴史に支えられ、二荒の森を中心に栄えてきたまちです」とありますように、LRTをバリアフリーな移動の手段として使い、歴史を前面に出した観光都市を目指したらよいと考えます。それは何かと申しますと、今回の予定区間には竹下駅があります。その近くには、南北朝時代、千早城攻略のおり楠木正成を悩ませた紀清両党の清、清原氏の居城として飛山城跡があります。国の指定史跡でもあります。また南には大崎商舎という製糸工場が明治3年に作られました、群馬県富岡の製糸工場が最近注目されておりますが、ここは川村伝左衛門という人が作り農家に桑を配り、優秀な工場として名をはせ、アメリカの大統領グラント将軍が見学に来たほどの世界的に有名な工場でした。

さらに、奈良時代に遡りますが宇都宮の西、大谷町には帝国ホテルで世界的に有名な建築家が帝国ホテルの建築に使った大谷石がとれます。

その大谷の石山に刻まれた磨崖仏である千手観音菩薩があります。一説によりますと、奈良時代鑑真とともに来日したお坊様がおります。日本三戒壇の一つ下野薬師寺にいた戒を授けている和尚様です。

その方が千手観音菩薩に関わったと言われます。現在国の特別史跡と重要文化財の二重指定になっております。

宇都宮中央部には二荒山神社があります、ここには、前九年の役の時、下野国で乱を治めるために祈禱をこらしたそうです、その結果奥州が平定されたので、その功績によって二荒山神社の社務式に任ぜられ、以後宇都宮に根をおろしました。

その末裔の一人、宇都宮五代頼綱は謀反の疑いをかけられ、その対応として出家しました。宇都宮氏は弟朝業が後を継ぎその後も存続しました。頼綱は出家して蓮生と名乗り法然の弟子になりました。

蓮生は京都の邸宅に住むようになり、当時歌聖と言われた藤原定家に師事し和歌を習いました。娘が藤原家に嫁ぐなど深い関係を結びました。

蓮生が京都の別荘に貼る和歌を、定家に依頼して選ばれた和歌が現在の小倉百人一首として伝えられています。

当時歌の町として、京都、鎌倉、宇都宮と歌の三大都市として有名でした。

その後1590年に豊臣秀吉が天下統一を遂げた折伊達政宗など関東及び奥州の諸領主に對し、宇都宮城にて宇都宮仕置を行いました。これはNHKの大河ドラマで、先月6月19日に放映されましたが見た方も居るかもしれませんが、テレビには出てきませんでした。

秀吉は頼朝に倣い行なったそうです。内容としては「鎌倉幕府を樹立した源頼朝が奥州合戦の際、鎌倉を落ち、宇都宮の二荒山神社に奉幣し奥州を平定した。ことに倣ったようです。」

江戸時代には与謝蕪村が「古庭に鶯啼きぬ日もすがら」と詠み宇都宮で初めて蕪村の号が生まれました、以前は宰鳥と号していました。

大正時代には若山牧水が二荒山神社で「ひとしきり散りての後をしづもりてうらけきかも遠き桜は」と詠みました。

このように 宇都宮には素晴らしい歴史や短歌や俳句など文化があります。

又、宇都宮の西側と市中心部二荒山神社前でジャパンカップが開催されました。東の清原には野球場、サッカー場、体育館などがありプロ野球などが開催される等、宇都宮の東西軸にはスポーツのイベントも開催されます。

是非ともLRTを清原地域とJR宇都宮駅間の整備だけでなく、栃木県の行政の中心地である、都市拠点地域迄延長して整備が必要と思われます。

さらに宇都宮の西側にある大谷地域までLRT結ぶことにより宇都宮が環境に配慮した歴史文化を発信する観光都市にもなり、西側延伸も必要な事業になると思われます。

#### ⑤ 都市計画の理念

最後になりますが、都市計画の基本理念が第二条にあります「健康で文化的な都市生活を確保する」とあります。まさにLRTを使い「東の清原地区と市役所や県庁や商業施設、文化施設のある都市拠点地区を經由して西側の大谷地域を結ぶ事業が進むことになれば都市計画の理念に合致したまちづくりになると思われます。ぜひ実現を願うものであります。